

児童の語い力を高めるための指導

二本松市立二本松南小学校教諭

加藤 隆

資料1 「学習対象語い」意味別表

項目	学習基本語い	教科書語い	上巻		下巻		
			5	7	5	7	
2.113 包摂	つつ おおう かぶる かおせ	だきしめる まじえる かかえ	326	615	615		
	416 215 12	こむ だきかかえる おつかぶ	229	326			
	る かぶさる かこむ かこう	さる いただく くるむ かざす	627	526	518		
	224 524	囲いこむ かきまぜる 取りか	529	11	329		
	取り巻く 浴びる 負う かか	こむ うちまじる ふきかける	513	326			
	327 214 517 2	おおい かおさる ふりかざす	615	3110			
	える はさむ ふくむ ふくめる	はぐ さらされる ぬぎすて	317	529	418		
	14 217 327	る					
	まじる まざる まぜる						
	12						
	(表のみかた)						
	※語句の下の数字は、その語句の新出学年・単元を表す。数字のないものは教科書に出ていない語句である。						
	例 まじえる						
	615 (6年 上巻 単元5に新出する。)						

一 研究の趣旨

本研究は、五十四年度からの継続研究であり、第二年度に当たる。

第一年度は、読解過程における語い指導について研究を行ったが、本年は研究の二次次として研究の範囲を書写を除く国語科全領域とし、次の三点を問題点としてとりあげ、実践により解明しようとした。

- (1) 児童に学習させるべき語句を、どこから、どんな方法で選んだらよいか。(指導語句の選択)
- (2) その語句を、国語科学習のどこで

どんな方法で学習させればよいか。(領域ごとの指導法の研究)
指導の効率化を図るための「語句指導カード」の作成

二 研究内容

(一) 研究仮説

児童の語い力を高めるためには、あらかじめ学習の対象とする語句を選択し、単元の導入、展開、終末のそれぞれの段階において、語句の意味によるつながり、語句の構成、性質によるつながりの両面から学習させればよい。

- (1) 「学習対象語い」の選択と分類
「学習対象語い」を次の二つの語いとした。
- (2) 「学習基本語い」とよぶ。

- ① 現在使用している国語科教科書に出ているすべての語句。(以後これを「教科書語い」とよぶ。)
- ② 「学習基本語い」(倉持保男選) 総数 四千六百一十一語

①と②の語句をあわせると九千七百八十九語となるが、両方に含まれる語句のかさなりを除くと総語句数は七千四百七十九語となる。これらの語句を国立国語研究所編「分類語彙表」に基づき意味別に四百八十七項目に分類し

資料2 「基本的指導法」

(指導上の留意点は省略)

導入	理解	展開	終末	表		他の単元
				現	単元	
・新出語句に対して、文章の脈絡の中で、語句の構成などにも目をむけさせ、意味の類推力を養う。	・新出語句に對して、文章の脈絡の中で、語句の構成などにも目をむけさせ、意味の類推力を養う。	・語句の意味を類推する。 ・辞書・その他の方法で意味理解を図る。	・語句の類縁関係に着目させ読みを深めさせる。 ・周辺語句と比較させ、その差異点をとらえさせる。	・「ねらい」の類縁関係に着目させ読みを深めさせる。 ・効果的な語句の使い方を考える。	・「ねらい」の類縁関係に着目させ読みを深めさせる。 ・効果的な語句の使い方を考える。	・「ねらい」の類縁関係に着目させ読みを深めさせる。 ・効果的な語句の使い方を考える。
・「ねらい」の類縁関係に着目させ読みを深めさせる。 ・効果的な語句の使い方を考える。	・「ねらい」の類縁関係に着目させ読みを深めさせる。 ・効果的な語句の使い方を考える。	・「ねらい」の類縁関係に着目させ読みを深めさせる。 ・効果的な語句の使い方を考える。	・「ねらい」の類縁関係に着目させ読みを深めさせる。 ・効果的な語句の使い方を考える。	・「ねらい」の類縁関係に着目させ読みを深めさせる。 ・効果的な語句の使い方を考える。	・「ねらい」の類縁関係に着目させ読みを深めさせる。 ・効果的な語句の使い方を考える。	・「ねらい」の類縁関係に着目させ読みを深めさせる。 ・効果的な語句の使い方を考える。